

平成23年度 学校評価表

ミッション	◆学校文化の定着による地域から信頼される教育活動 ◆学力向上を中心とした教育研究の発信	学校教育目標 『夢 輝く 高須小教育の創造』 ◇知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ◇開かれた学校づくり ◇組織的・創造的な教育活動の推進	尾道市立高須小学校
-------	------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	-----------

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画			
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標値	7月	1月	達成度	評価	結果と課題の説明	二次評価			コメント	改善案	
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、活用する力を育成する	学習規律・学習技能を定着させる	家庭学習をやりきらせる（毎日）	目標達成児童の割合	90	92	102	A	・学校全体として家庭学習の習慣が定着してきている。習慣化されていない児童への粘り強い指導が必要である。 ・相手を意識した話し方と聞き方は、意識付けはできてきているが、まだ、定着できていない状況である。	○		・良いと思います。 ・話し方は、読書の量に比例します。	・家庭学習のできない児童が固定化しているため、保護者を通して粘り強く指導を要している。 ・ひとつずつの目標を明確にし、評価を加えながら定着をはかる。		
			相手を意識した話し方・聴き方の指導の徹底を図る	教師自己評価4段階3以上の割合	80	61	76	C		○					
		基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	推薦図書を進んで読ませる	目標達成児童の割合	90	41	46	C		・課題図書の見直しもあり、条件整備が遅れた。 ・1学期の漢字の習得は、難しい傾向にある。 ・計算方法は理解できて、確実にできない児童が多い。	○			・課題図書については早目の準備をしましょう。 ・夏休みにしっかり読書を読ませたかったですね。 ・漢字と計算は、繰り返し学習しなさいと思います。	・読書の時間を確保する。各学年ごとに具体的な取組み方法を考える。課題図書の見直しを検討する。本の紹介をおこなう。 ・漢字と計算について繰り返し定着のための練習を行う。定着度を確かめるテストを定期的に行う。
			漢字の習熟を図る	期末漢字テスト学年目標達成児童の割合	80	60	75	C			○				
			計算の習熟を図る	期末計算テスト学年目標達成児童の割合	80	79	99	B			○				
		思考力・表現力を高める		(思考力) 知識・技能を活用して考え、表現させる	チャレンジ・期末テスト80点以上の割合（国語・算数）	80	71	89		B	・国語の研究を物語文に変えたことで、国語についてはまだ力が付いていない。 ・話し方は昨年度からの積み重ねで力が付いてきている。 ・自分の考えを書くことについては、昨年度からの積み重ねで力が付いてきている。			○	・訓練だと思えます。大人もそうですから。
	(表現力) 本校マニュアルに即した話し方の徹底を図る			教師自己評価80%以上の項目	80	75	94	B	○						
	(表現力) マニュアルにそって自分の考えを書かせる。			自分の考えができた児童の割合（教師評価）	75	69	92	B	○						
	豊かな心の育成	マナーとルールを身につけさせる	気持ちのよい挨拶をさせる	友達・先生・来校者にあいさつのレベル向上を意識させる。	レベル3以上のあいさつができた児童の割合（自己評価）	90	91	101	A	・校内での挨拶はよく頑張っている。職員や来校者への挨拶も良い。朝の登校時の挨拶が十分にない。地域や来校者の評価が低い。笑顔で気持ちよい挨拶は少ない。 ・毎日の掃除チェック表や、毎月の生活チェック表の取り組みは意識づけの面でも有効である。学年、学級、担当場所によって無意識の取り組みや集中の度合いに温度差がある。 ・掃除の合格基準の取り組みを進め、美しくするための具体的な基準を設定する。自分たちの学習環境を整える意義を理解させる。	○	・良いと思います。	・生活委員会のあいさつ運動と連携し登校時と授業中の挨拶を徹底する。挨拶の意義と地域のつながりについて理解させ、指導を促す。すすんで挨拶、心のこもった挨拶について指導する。		
				時間いっぱいすみすみまで掃除をさせる	無言清掃に取り組みさせる	無言で時間いっぱい掃除した児童の割合（自己評価）	90	89	99		B			○	
			時間を守って行動させる	掃除の手順がわかり、掃除合格基準を考えさせ掃除をさせる	手順にそって掃除に取り組み、合格基準に達した児童の割合（自己評価）	90	96	107	A		○				
		予鈴無言行動を意識させる		予鈴無言行動ができた児童の割合（自己評価）	90	84	94	B	○		・特別教室への移動等は、落ち着いて大変良い。大休憩や昼休憩のグラウンドへ出る際、落ち着きが無く、声大きい。休憩から校舎へ入るときは、少しずつ意識が感じられるようになったが、自主的な取り組みは少ない。 ・昨年度に比べると、クラスによる差がほとんど無く、取り組みは向上している。				
授業準備がしてから休憩させる		授業準備ができた児童の割合（自己評価）		90	87	96	B	○							
健康で元気な体をつくることのできる		健康・安全に気をつけさせる	校舎内の安全な過ごし方を身につけさせる	防げるケガによるスポーツ振興センター申請者数の割合	全児童数の2%以下 (15件)	6件			・安全に関する講話をつくり、全員で唱えることなどを通して、安全に対する意識は高まってきている。きまりを守っていなかったり、してはいけないことをしてしまったりしたケガが多い。 ・毎月1日を安全点検の日にし、月中行事計画にも明記し、実施している。					○	・良いと思います。 ・全国データとの比較を行います。
	月一回の安全指導・安全点検を行う		達成月割合	100	100	100	A	○							
	進んで外遊びをしようとする子を育てる	ロング昼休憩、異学年交流遊びを実施する	一日一回外遊びをした児童の割合	95	87	92	B	・体育委員会による取り組み（外遊び隊、道BOX）が効果をあげている。各クラスの学級遊びが定着しつつある。本課目のロング昼休憩は、異学年交流遊びが実施できていない。熱中症への対策が必要である。 ・6学年中、3学年で地域の方を招いて学習を行った（1回の学年が2学年、2回以上の学年が1学年）。地域人材を活用した学年では、児童の理解が深まった。学習意欲が向上した。しかし、半数の学年が実施できなかった。 ・各学年のブログは、平均して毎月1回以上更新することができた。月ごとに学年により、行事や学習内容が違っており、更新数に差がある。		○					
		健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる			健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	健康・安全に気をつけさせる	
信頼される学校	学校総体としての組織的・創造的な教育活動を推進する	積極的に情報発信する	地域人材を活用する	年間2回以上活用した学年の割合	80	33	41		D	・各学年で、3学年で地域の方を招いて学習を行った（1回の学年が2学年、2回以上の学年が1学年）。地域人材を活用した学年では、児童の理解が深まった。学習意欲が向上した。しかし、半数の学年が実施できなかった。 ・各学年のブログは、平均して毎月1回以上更新することができた。月ごとに学年により、行事や学習内容が違っており、更新数に差がある。	○	・良いと思います。 ・ホームページに児童の普段の姿を入れましょう。行事でなくても先生が感心したことで良いです。	・生活科・道徳・総合的な学習の時間・社会科等において、夏休み中に2学期以降の学習計画を立てる。 ・普段からカメラを携帯したり、行事の担当者に撮影を依頼したりして、写真を準備する。		
		積極的に情報発信する	ホームページを月1回以上更新する	年間のHPの更新回数	200	153	76		A		○				
		積極的に情報発信する	RPDCAサイクルに即した教育活動を行う	各行事後反省会をもち、課題についての改善案を作成する	達成行事の割合	100	100	100	A		○			・反省会後にマニュアルの見直しを行う事、それが改善です。	・2学期以降は、音楽発表会と研究会について反省を行う。

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 C：60≦（もう少し）<80
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。
 ロ：自己評価は適正でない。
 ハ：わからない。